

ヒルマ・アフ・クリント 展

Hilma af Klint: The Beyond

- ・ 出品リストは、出品番号 (exh. no.)、作品名、制作年、素材・技法、寸法 (縦 × 横 cm)、インベントリ番号 (inv. no.) ／ 所蔵の順に記載しました。
- ・ 一部をのぞき、すべてヒルマ・アフ・クリントによる作品です。そうでないものは出品番号と作品名の間に作者名を記載しました。
- ・ HaK xxx は、ヒルマ・アフ・クリント財団が作品およびノートなどの資料類に付したインベントリ番号です。インベントリ番号が付されているものはすべてヒルマ・アフ・クリント財団所蔵であり、番号のないものは個人蔵です。
- ・ 出品番号は、展示の順序とは必ずしも一致しません。
- ・ 都合により、出品作品や展示期間に変更が生じる場合があります。
- ・ 個人利用に限り、会場内の写真撮影が可能です。フラッシュの使用、動画の撮影は禁止です。他の来場者の鑑賞を妨げるような撮影はご遠慮ください。なお、会場内の混雑状況により予告なく撮影を禁止する場合がございます。予めご了承ください。

1 章 アカデミーでの教育から、職業画家へ

出品番号	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (縦 × 横)	inv. no. ／ 所蔵
001	フォルム研究、螺旋階段、光と影	1880	木炭、グラファイト・紙	62 × 49 cm	HaK 1390
002	フォルム研究、スタッコ・ロゼット	1881	木炭、クレヨン、グラファイト・紙	62 × 49 cm	HaK 1388
003	人体研究、男性モデル	1885	木炭、クレヨン、グラファイト、インク・紙	62.5 × 48 cm	HaK 1231
004	夏の風景	1888	油彩・キャンバス	87 × 147 cm	ドルシア・ホテル ヨーテボリ、スウェーデン
005	習作、馬の頭	1900–01	グラファイト・紙	35 × 43 cm	HaK 1299
006	ニシインドコキュウリ	制作年不詳	水彩、インク、グラファイト・紙	22.5 × 35.5 cm	HaK 1327
007	ポビー	制作年不詳	水彩、インク・紙	58 × 35.5 cm	HaK 1330
008	アミガサタケ	制作年不詳	水彩、グラファイト・紙	17.5 × 17 cm	HaK 1335
009	オウシュウマンネングサ	制作年不詳	水彩、インク、グラファイト・紙	13.5 × 18.5 cm	HaK 1358
010	ブルーベル、ブタナ、ヒメナデシコ	制作年不詳	水彩、グラファイト・紙	48 × 31 cm	HaK 1370
011	ユリ	制作年不詳	クレヨン、グラファイト・紙	49 × 31.5 cm	HaK 1374
012	シャグマアミガサタケ	制作年不詳	水彩・紙	17 × 16.5 cm	HaK 1601
013	ポビーのあるコンポジション	制作年不詳	水彩、グラファイト・紙	42 × 38 cm	HaK 1687
014	書籍『てんとう虫のマリア』のためのスケッチ	制作年不詳	水彩、インク、グラファイト・紙	63 × 47 cm	HaK 1303
015	スケッチ、子どもたちのいる農場 [『てんとう虫のマリア』]	制作年不詳	水彩、インク、グラファイト・紙	55 × 40 cm	HaK 1305
016	北欧博物館のタペストリーに基づく習作	制作年不詳	水彩、グラファイト・紙	26 × 63.5 cm	HaK 1379
017	フォーーク・アートに基づく習作	制作年不詳	水彩・紙	25 × 49.5 cm	HaK 1653
018	肖像、フレドリック・ヴィクトル・アフ・クリント	制作年不詳	油彩・キャンバス	72 × 61 cm	HaK 1781

2 章 精神世界の探求

出品番号	作品名 (「5人」は作者名)	制作年	技法・材質	寸法 (縦 × 横)	inv. no. ／ 所蔵
019	「5人」スケッチブック、 ブック2：1896年10月5日から1902年9月25日	1896–1902	グラファイト・紙	31 × 26 cm	HaK 1515 (S2)
020	「5人」無題	1903	グラファイト・紙	50 × 31.5 cm	HaK 1485
021	「5人」スケッチブック、 ブック7：1903年12月15日から1904年11月15日	1903–04	グラファイト・紙	31 × 26 cm	HaK 1520 (S7)
022	「5人」スケッチブック、 ブック13：1905年1月24日から1906年1月10日	1905–06	グラファイト・紙	31 × 26 cm	HaK 1526 (S13)
023	「5人」無題	1908	ドライバステル、グラファイト・紙	53 × 63.5 cm	HaK 1252
024	「5人」無題	1908	ドライバステル、グラファイト・紙	53 × 62 cm	HaK 1261
025	「5人」無題	1908	ドライバステル・紙	52.5 × 63 cm	HaK 1274
026	「5人」無題	制作年不詳	グラファイト・紙	50 × 44 cm	HaK 1472
027	「5人」無題	制作年不詳	グラファイト・紙	51 × 42 cm	HaK 1474
028	大きな樹	制作年不詳	油彩・キャンバス	121.5 × 80 cm	HaK 1691
029	ユリを手に座る女性 [グステン・アンデション]	制作年不詳	油彩・キャンバス	70.5 × 56.5 cm	HaK 1783

3章 「神殿のための絵画」

出品番号	作品名	制作年	技法・材質	寸法（縦×横）	inv. no.／所蔵
030	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 1	1906-07	油彩・キャンバス	53 × 37 cm	HaK 001
031	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 2	1906-07	油彩・キャンバス	53 × 36.5 cm	HaK 002
032	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 3	1906-07	油彩・キャンバス	53 × 37 cm	HaK 003
033	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 5	1906-07	油彩・キャンバス	53 × 37 cm	HaK 005
034	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 9	1906-07	油彩・キャンバス	51.5 × 37 cm	HaK 009
035	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 10	1906-07	油彩・キャンバス	51.5 × 37 cm	HaK 010
036	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 12	1906-07	油彩・キャンバス	53 × 37 cm	HaK 012
037	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 15	1906-07	油彩・キャンバス	52 × 37 cm	HaK 015
038	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 16	1906-07	油彩・キャンバス	53 × 37 cm	HaK 016
039	原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループⅠ、No. 26	1906-07	油彩・キャンバス	50.5 × 37 cm	HaK 026
040	エロス・シリーズ、WU／薔薇シリーズ、グループⅡ、No. 2	1907	油彩・キャンバス	58.5 × 81.5 cm	HaK 028
041	エロス・シリーズ、WU／薔薇シリーズ、グループⅡ、No. 5	1907	油彩・キャンバス	58 × 79 cm	HaK 031
042	エロス・シリーズ、WU／薔薇シリーズ、グループⅡ、No. 6	1907	油彩・キャンバス	58 × 79 cm	HaK 032
043	大型の人物像絵画、WU／薔薇シリーズ、グループⅢ、No. 5、 これまでの全作品（仕事）の鍵	1907	油彩・キャンバス	150 × 118 cm	HaK 042
044	大型の人物像絵画、WU／薔薇シリーズ、グループⅢ、No. 6	1907	油彩・キャンバス	162.5 × 139.5 cm	HaK 043
045	大型の人物像絵画、WU／薔薇シリーズ、グループⅢ、No. 9	1907	油彩・キャンバス	169 × 144.5 cm	HaK 047
046	10の最大物、グループⅣ、No. 1、幼年期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	322 × 239 cm	HaK 102
047	10の最大物、グループⅣ、No. 2、幼年期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	315 × 234 cm	HaK 103
048	10の最大物、グループⅣ、No. 3、青年期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	321 × 240 cm	HaK 104
049	10の最大物、グループⅣ、No. 4、青年期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	315 × 234 cm	HaK 105
050	10の最大物、グループⅣ、No. 5、成人期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	321 × 237 cm	HaK 106
051	10の最大物、グループⅣ、No. 6、成人期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	315 × 234 cm	HaK 107
052	10の最大物、グループⅣ、No. 7、成人期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	315 × 235 cm	HaK 108
053	10の最大物、グループⅣ、No. 8、成人期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	322 × 239 cm	HaK 109
054	10の最大物、グループⅣ、No. 9、老年期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	320 × 238 cm	HaK 110
055	10の最大物、グループⅣ、No. 10、老年期	1907	テンペラ・紙（キャンバスに貼付）	320 × 237 cm	HaK 111
056	進化、WUS／七芒星シリーズ、グループⅥ、No. 7	1908	油彩・キャンバス	101.5 × 132.5 cm	HaK 075
057	進化、WUS／七芒星シリーズ、グループⅥ、No. 9	1908	油彩・キャンバス	101 × 131.5 cm	HaK 077
058	進化、WUS／七芒星シリーズ、グループⅥ、No. 11	1908	油彩・キャンバス	102.5 × 133.5 cm	HaK 079
059	進化、WUS／七芒星シリーズ、グループⅥ、No. 13	1908	油彩・キャンバス	99 × 129.5 cm	HaK 081
060	進化、WUS／七芒星シリーズ、グループⅥ、No. 15	1908	油彩・キャンバス	99 × 130 cm	HaK 083
061	知恵の樹、Wシリーズ、No. 1	1913	水彩、グアッシュ、グラファイト、インク・紙	45.7 × 29.5 cm	HaK 133
062	知恵の樹、Wシリーズ、No. 2	1913	水彩、グアッシュ、グラファイト、インク・紙	45.8 × 29.5 cm	HaK 134
063	知恵の樹、Wシリーズ、No. 3	1915	水彩、グアッシュ、グラファイト、インク・紙	45.8 × 29.5 cm	HaK 135
064	知恵の樹、Wシリーズ、No. 4	1915	水彩、グアッシュ、グラファイト、インク・紙	45.8 × 29.5 cm	HaK 136
065	知恵の樹、Wシリーズ、No. 5	1915	水彩、グアッシュ、グラファイト、インク・紙	45.8 × 29.5 cm	HaK 137
066	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 1	1914-15	油彩・キャンバス	150 × 150 cm	HaK 149
067	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 7	1915	油彩・キャンバス	148.5 × 149.5 cm	HaK 155
068	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 8	1915	油彩・キャンバス	152.5 × 149 cm	HaK 156
069	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 9	1915	油彩・キャンバス	149.5 × 149 cm	HaK 157
070	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 10	1915	油彩・キャンバス	150 × 150 cm	HaK 158
071	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 11	1915	油彩・キャンバス	150.5 × 149 cm	HaK 159
072	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 13	1915	油彩・キャンバス	148.5 × 151 cm	HaK 161
073	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 17	1915	油彩・キャンバス	150.5 × 151 cm	HaK 165
074	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 18	1914	油彩・キャンバス	149 × 152 cm	HaK 166
075	白鳥、SUWシリーズ、グループⅨ：パートⅠ、No. 20	1914	油彩・キャンバス	149 × 152 cm	HaK 168
076	祭壇画、グループⅩ、No. 1	1915	油彩、箔・キャンバス	237.5 × 179.5 cm	HaK 187
077	祭壇画、グループⅩ、No. 2	1915	油彩、箔・キャンバス	238 × 179 cm	HaK 188
078	祭壇画、グループⅩ、No. 3	1915	油彩、箔・キャンバス	237.5 × 178.5 cm	HaK 189

079	青の本、ブック1（原初の混沌）	制作年不詳	写真、鉛筆、水彩・紙（布装本）	17 × 23 cm	HaK 1171
080	青の本、ブック2（エロス・シリーズ）	制作年不詳	写真、鉛筆、水彩・紙（布装本）	17 × 23 cm	HaK 1172
081	青の本、ブック4（10の最大物）	制作年不詳	写真、鉛筆、水彩・紙（布装本）	17 × 23 cm	HaK 1174
082	青の本、ブック5（七芒星）	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙（布装本）	17 × 23 cm	HaK 1175
083	青の本、ブック6（進化）	制作年不詳	写真、鉛筆、水彩・紙（布装本）	17 × 23 cm	HaK 1176
084	青の本、ブック9（白鳥と鳩）	制作年不詳	写真、鉛筆、水彩・紙（布装本）	17 × 23 cm	HaK 1179

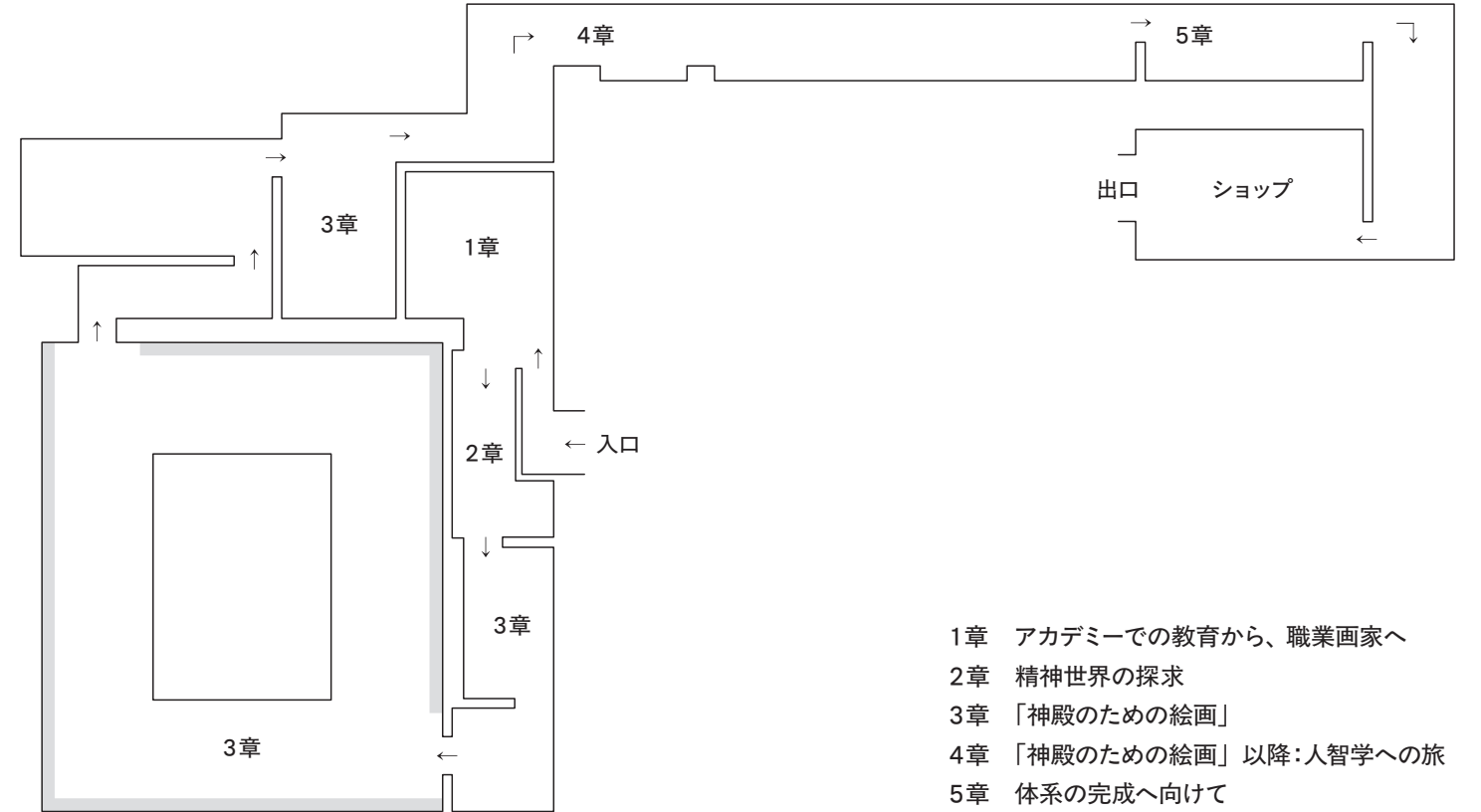
4章 「神殿のための絵画」以降：人智学への旅

出品番号	作品名	制作年	技法・材質	寸法（縦×横）	inv. no. / 所蔵
085	パルジファル・シリーズ、グループ II、 エーテルの折り畳み、No. 62	1916	水彩、グラファイト・紙	27 × 25 cm	HaK 271
086	パルジファル・シリーズ、グループ II、 エーテルの折り畳み、No. 63	1916	水彩、グラファイト・紙	27 × 25 cm	HaK 272
087	パルジファル・シリーズ、グループ II、 アストラル・フォースの折り畳み、No. 68	1916	水彩、グラファイト・紙	27 × 25 cm	HaK 278
088	パルジファル・シリーズ、グループ II、 アストラル・フォースの折り畳み、No. 73	1916	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	27 × 25 cm	HaK 283
089	パルジファル・シリーズ、グループ II、精神界の折り畳み、No. 77	1916	水彩、グラファイト・紙	27 × 25 cm	HaK 287
090	パルジファル・シリーズ、グループ II、精神界の折り畳み、No. 78	1916	水彩、グラファイト・紙	27 × 25 cm	HaK 288
091	パルジファル・シリーズ、グループ II、物質界の折り畳み、No. 88	1916	水彩、グラファイト・紙	27 × 25 cm	HaK 298
092	パルジファル・シリーズ、グループ II、物質界の折り畳み、No. 89	1916	水彩、グラファイト・紙	27 × 25 cm	HaK 299
093	原子シリーズ、No. 10	1917	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	27 × 25 cm	HaK 362
094	原子シリーズ、No. 13	1917	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	27 × 25 cm	HaK 365
095	原子シリーズ、No. 14	1917	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	27 × 25 cm	HaK 366
096	原子シリーズ、No. 16	1917	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	27 × 25 cm	HaK 368
097	原子シリーズ、No. 17	1917	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	27 × 25 cm	HaK 369
098	原子シリーズ、No. 20	1917	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	27 × 25 cm	HaK 372
099	無題のスケッチ	1916	水彩、グラファイト・紙	25 × 20 cm	HaK 198
100	無題シリーズ I	1917	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	50.5 × 27 cm	HaK 397
101	グループ 1、No. 4b、4c	1919	水彩、グラファイト・紙	36 × 50 cm	HaK 434
102	グループ 1、No. 5、6	1919	水彩、グラファイト・紙	36 × 50 cm	HaK 435
103	グループ 2、No. 30a–38c	1919	水彩、グラファイト・紙	36 × 50 cm	HaK 451
104	グループ 3、No. 10–17	1919	水彩、グラファイト・紙	36 × 50 cm	HaK 453
105	無題シリーズ III、モタシラ・アルバ セキレイとガイドライン	1919	水彩、グラファイト・紙	36 × 50 cm	HaK 456a
106	穀物についての作品、小麦	1920	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	15 × 12 cm	HaK 546
107	穀物についての作品、ライ麦	1920	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	15 × 12 cm	HaK 547
108	穀物についての作品、オーツ麦	1920	水彩、グラファイト、メタリックペイント・紙	15 × 12 cm	HaK 548
109	シリーズ V、No. 2a	1920	油彩、グラファイト・キャンバス	39 × 28 cm	HaK 498
110	シリーズ V、No. 2b	1920	油彩、グラファイト・キャンバス	39 × 28 cm	HaK 499
111	シリーズ V、No. 3a	1920	油彩、メタリックペイント、グラファイト・キャンバス	40 × 28.5 cm	HaK 500
112	シリーズ V、No. 3b	1920	油彩、メタリックペイント、グラファイト・キャンバス	40 × 28.5 cm	HaK 501
113	シリーズ V、No. 3c	1920	油彩、グラファイト・キャンバス	39.5 × 28.5 cm	HaK 502
114	シリーズ V、No. 4	1920	油彩、メタリックペイント、グラファイト・キャンバス	39 × 28 cm	HaK 504
115	シリーズ V、No. 5	1920	油彩、メタリックペイント、グラファイト・キャンバス	39 × 28.5 cm	HaK 505
116	シリーズ V、No. 6	1920	油彩、メタリックペイント、グラファイト・キャンバス	39 × 28.5 cm	HaK 506
117	シリーズ V、No. 7	1920	油彩、メタリックペイント、グラファイト・キャンバス	39 × 28 cm	HaK 507
118	花と木を見ることについて、無題	1922	水彩・紙	18 × 26 cm	HaK 597
119	花と木を見ることについて、無題	1922	水彩・紙	18 × 26 cm	HaK 604
120	花と木を見ることについて、無題	1922	水彩・紙	18 × 26 cm	HaK 606
121	花と木を見ることについて、無題	1922	水彩・紙	18 × 25 cm	HaK 635
122	花と木を見ることについて、無題	1922	水彩・紙	18 × 25.5 cm	HaK 636
123	花と木を見ることについて、アザミ	1922	水彩・紙	25 × 35 cm	HaK 644
124	花と木を見ることについて、無題	1922	水彩・紙	25.5 × 35.5 cm	HaK 659
125	花と木を見ることについて、無題	1933	水彩・紙	25.5 × 35.5 cm	HaK 910*

*カタログ・レゾネ（*Hilma af Klint: Catalogue Raisonné*, Vol. 6, 376）には「HaK 654」と記載されるが、正しくは「HaK 910」である（ヒルマ・アフ・クリント財団の確認による）。

5章 体系の完成へ向けて

出品番号	作品名	制作年	技法・材質	寸法（縦×横）	inv. no. / 所蔵
126	無題	1924	水彩・紙	24.5 × 39.5 cm	HaK 702b
127	無題	1930	水彩・紙	29 × 23 cm	HaK 771
128	無題	1931	水彩・紙	35 × 26 cm	HaK 784
129	地図：グレートブリテン	1932	水彩、グラファイト・紙	70 × 48.5 cm	HaK 883
130	無題	1934	水彩・紙	50 × 35 cm	HaK 958
131	無題	1941	水彩、グラファイト・紙	49 × 33.5 cm	HaK 1025
132	無題	1941	水彩・紙	48.5 × 33 cm	HaK 1026
133	無題	1941	グラファイト・紙	48.5 × 33.5 cm	HaK 1027
134	無題	1941	水彩、グラファイト・紙	50 × 35 cm	HaK 1030
135	無題	1941	水彩・紙	50 × 35 cm	HaK 1034
notebook 1	ノートブック「ヒルマ・アフ・クリントの作品に関する文字と語句についてのノート」	1906-07	インク、鉛筆・紙	20.5 × 17 cm	HaK 1040
notebook 2	1930-31年のノートブック	1930-31	インク、グラファイト・紙	21 × 17 cm	HaK 1047
notebook 3	1932年のノートブック	1932	インク、グラファイト、水彩・紙（罫線入りスケッチブック）	21 × 17 cm	HaK 1049
notebook 4	1934年のノートブック	1934	鉛筆、水彩・紙	21 × 17 cm	HaK 1072
追加出品	クリスマスプレゼント	制作年不詳	水彩、インク、グラファイト・紙	41 × 56 cm	個人蔵
関連資料	無題シリーズ III、スマイルの花とガイドライン（複製）	1919			HaK 457
関連資料	花、コケ類、地衣類（1919-20年）	1919-20			HaK 588



1 章

アカデミーでの教育から、職業画家へ

— 人体研究、男性モデル (exh. no. 003)

王立芸術アカデミー在学中の作品です。アカデミーでは解剖学の授業も開講されており、本作は、この10年後に発明されるレントゲン写真のように、皮膚の下にある骨の構造までが描写された点で興味深いものとなっています。

— 夏の風景 (exh. no. 004)

アカデミー卒業後、アフ・クリントは風景画や肖像画の注文を受けたり、展覧会へ出品したりするなど、職業画家としてのキャリアを順調にスタートしました。バルト海に浮かぶエーランド島の風景を描いた本作では、濃い緑と茶を基調にした前景から、画面奥へ伸びる道が深い奥行きを作り出し、その先には紫とピンクによる印象的な夕空が広がっています。堅固な画面構成や効果的な色彩の選択が技量のほどをよく示す、彼女の自然主義的な絵画の典型例です。

— クリスマスプレゼント (追加出品)

原題は Julklappen。Jul はスウェーデン語で「クリスマス」、klappen は「ノックする音」という意味。その昔、スウェーデンには扉の外に贈り物を置き、ノックをしてその場を立ち去るという風習がありました。ドアを開けると贈り物があるが、贈り主の姿は見えません。この作品では、少女の背後に二人の天使が見守っており、読書中に何かの覚醒を得たことが示唆されているかのようです。ここでは、スピリチュアリズムと、子どもが叡智を広げていく過程とが重ね合わされています。

— 書籍『てんとう虫のマリア』のためのスケッチ (exh. no. 014)

— スケッチ、子どもたちのいる農場 [『てんとう虫のマリア』] (exh. no. 015)

アフ・クリントは児童書の挿画も手がけていました。これらのスケッチは、神智学者のアンナ・マリア・ロースの著作『てんとう虫のマリア』のために描かれたものです。20世紀初頭のスウェーデンでは、『児童の世紀』(1900年)で世界的に知られるエレン・ケイをはじめ児童教育分野で活躍した女性が多く存在し、彼女たちはしばしば女性の権利獲得にも尽力しました。そのような環境に身を置いていたことが、アフ・クリントの思想形成に影響を与えたであろう点は見逃せません。また、一部のスケッチの裏面に残された自動描画による波線は、のちの制作を考えるうえで興味深いものです。

2 章

精神世界の探求

— ^{しんちがく}神智学

神秘的霊知によって神を認識できると説く信仰。1875年、ニューヨークに神智学協会を創設したヘレナ・P・ブラヴァツキーらが唱えた神智学は、東西の諸宗教を結び付け、瞑想や交霊によって神の真理を目指すことを理想としていました。17歳の頃から神秘思想やスピリチュアリズムに関心のあったアフ・クリントは、ストックホルムの神智学協会に所属し、協会主催の展覧会に作品を出品しました。

— 「5人(De Fem)」 (exh. nos. 019–027)

キリスト教や神智学の教えを融合したエーデルワイス協会の一員となったアフ・クリントは、1896年、協会内で親しかったアンナ・カッセルをはじめとした4人の女性と、グループ「5人(De Fem)」を結成し、1908年頃まで活動しました。彼女たちは交霊会におけるトランス状態において、アマリエル、アナンダ、グレーゲルと呼ばれる霊的存在からメッセージを受け取り、自動書記や自動描画によって記録しました。十字架や草花、螺旋、オウムガイ、文字といったモチーフは、のちの「神殿のための絵画」とも共通しています。

3 章

「神殿のための絵画」

— 原初の混沌、WU／薔薇シリーズ、グループ I (exh. nos. 030–039)

「神殿のための絵画」の最初の連作です。作品内にも記されるWUは、アフ・クリントにとって特に重要な意味をもつ文字でした。彼女が文字に付与する意味は多義的ですが、ここでのWUは物質(W)と精神(U)の合一を意味し、あるいは「進化」の印ともされました。基調となる色彩は黄、青、緑で、特に黄と青は「神殿のための絵画」全体で多用される色です。彼女は青に女性性、黄に男性性を付与しましたが、それは時に交替する流動的なものでした。全体としては、善と悪、男性性と女性性など二元性に引き裂かれた力を結びつけ、世界の始まりにあった単一性を再び実現するという、世界の誕生についての神智学的教えがテーマになります。No. 9 (exh. no. 034)の画面には「主に仕えるヴェスタルとアスケット」と書き込まれていますが、ヴェスタルは「純潔」を意味し、しばし

ば親友アンナ・カッセルを指す語として、一方のアスケットは「禁欲」を意味し、アフ・クリント本人を指す語として使われました。

― エロス・シリーズ、WU／薔薇シリーズ、グループ II (exh. nos. 040–042)

〈原初の混沌〉と共通し、二元性の解消による単一性の獲得が主要なテーマになっています。一方で、パステルカラーのピンクの多用が、〈原初の混沌〉にはなかった存在として目を引きます。形態としては花卉や四つ葉のクローバーのような植物モチーフが頻出します。No. 6 (exh. no. 042) では、中央の花または葉の下部に、ピンクで liljans (ユリ)、黄で friska (健康)、青で ros (バラ) の文字が描かれています。画面内で明確にバラやユリと同定できる形象は認めがたいものの、アフ・クリントにとって、バラとユリは二元性の対をなす重要な位置づけにありました。彼女がノートに残したコメントによれば、バラとユリは「二元性の痛みの克服」であり、両者が一緒になることは「完全性」を意味しました。

タイトルの「エロス」は、ギリシア神話の性愛をつかさどる神との関連を想起させるものですが、彼女はエロスについて以下の言葉をノートに記しています。「エロスはあらゆる色の融合であり、とりわけ愛の理解を告げるものだ」

― 大型の人物像絵画、WU／薔薇シリーズ、グループ III (exh. nos. 043–045)

グループ I 〈原初の混沌〉、II 〈エロス・シリーズ〉に続く WU／薔薇シリーズとして区分されます。グループ I、II と比べ画面サイズが大型化し、また具象的な人物形象が認められます。青(女性性)、黄(男性性)、ピンク(愛)といった色彩の使用と、そこに付与した意味合いは、〈エロス・シリーズ〉との共通性も感じさせます。

No. 5 (exh. no. 043) は、「これまでの全作品(仕事)の鍵」というサブタイトルにあるように、アフ・クリント本人にとっても重要な位置づけの作品であったようです。青い地の上の大きな円形内部に左右対称に配された青と黄の形象から、男性性と女性性の存在をうかがい知ることができますが、両者は重なり合い、流動しています。円形中央には、白い二つの十字架に挟まれるように H の形象が認められます。本人はこの文字にしばしば「高次の霊的存在」の意味を付与しました。

― 進化、WUS／七芒星シリーズ、グループ VI (exh. nos. 056–060)

〈WUS／七芒星シリーズ〉はグループ V とグループ VI から構成され、後者が「進化」と題されました。アフ・クリントが WUS に付与した意味には「人間性の7つの構成部分」「物質への降下による経験の強化」などが含まれます。進化というタイトルは、チャールズ・ダーウィンの『種の起源』(1859年) 出版後、半世紀を経た当時もまだ盛んに議論されていた進化論への関心もうかがわれます。し

かしアフ・クリントにとっての進化とは、魂が高次の段階へと上昇し、神に近づく精神的なプロセスであるという神智学思想を経由するものでした。〈原初の混沌〉〈大型の人物像絵画〉などから継続する、黄と青の色彩、男性と女性、カタツムリ／オウムガイ、十字架といったモチーフが頻出することからも、二元性の解消と単一性の獲得が、「進化」としてここに表現されていると言えます。

― 10の最大物、グループ IV (exh. nos. 046–055)

1907年8月、アフ・クリントは、人生の4つの段階についての「楽園のように美しい10枚の絵画」を制作する啓示を受けました。10月2日に制作を開始し、わずか2か月のうちに高さ約3.2m、幅約2.4mの巨大な絵画10点を仕上げます。彼女はこの〈10の最大物〉が、ノアの方舟が大洪水の後にたどり着いたとされるアララト山に起源をもち、また「進化」を描き出すものと記しました。各作品はキャンバスに張り合わされた紙を支持体に、乾きの早いテンペラ技法で描かれます。モノクロームの色面を背景に、様々な形態が浮遊するように配置された画面構造は10点共通です。「神殿のための絵画」全体に共通する二元性の解消や霊性の進化がここでもテーマとなっています。

人生の4段階とはいえ、No. 1 から No. 10 (exh. nos. 046–055) へ線的な展開を必ずしも認めることはできません。アフ・クリントが神智学などを通して輪廻転生に親しんでいたことを踏まえれば、No. 10 が再び No. 1 へと回帰するような円環構造が構想されていたようにも思われます。

― 知恵の樹、Wシリーズ (exh. nos. 061–065)

知恵の樹とは一般に、旧約聖書の『創世記』に登場する、アダムとエヴァがその実を食べることで楽園を追われた樹を指します。No. 2 (exh. no. 062) の裏面には、画面にも描かれている2羽の鳥の欲望、あるいは男性と女性の間の欲望について記されたアフ・クリント本人のメモが認められ、性や欲望に関わる二元性がテーマの一つであったことがうかがえます。しかし彼女が込めた意味はそれにとどまらず多義的です。例えば北欧神話に現れる宇宙樹ユグドラシル(全世界の上に枝をひろげる巨大な樹で、三つの根はそれぞれ冥界、霜の巨人の世界、そして人間の世界につながっているとされた) との関連が指摘されています。また、樹の形状が人間の脳のようにも見えることから、アフ・クリントが影響を受けた思想家ルドルフ・シュタイナーによる宇宙樹(脳は宇宙樹に到達するための入口であり、ミクロコスム(人間の脳)とマクロコスム(宇宙)が接続する) のヴィジョンとの関連も指摘されています。

― 白鳥、SUW シリーズ、グループ IX : パート I (exh. nos. 066–075)

白鳥というモチーフの源泉はいくつか考えられます。一つはヒンドゥー教における白鳥で、輪廻転生からの解脱を表すもの、高次元の存在への到達の象徴とされました。

また、ギリシア神話における白鳥は、ゼウスが白鳥に変身し、スパルタ王の妻レダを誘惑したというエピソードで広く知られています。No. 1 (exh. no. 066) では、二分された画面上で白と黒、2羽の鳥の闘争が演じられ、No. 7 (exh. no. 067) では4分割された画面上で、2羽の鳥がそれぞれ半身に分割されます。No. 8 (exh. no. 068) では、2羽の鳥は物質の最小単位を表すかのような立方体の集合へと分解され、具象的な画面は幾何学的な表現へと変貌します。No. 9 (exh. no. 069) から No. 18 (exh. no. 074) にかけてはプロペラ状の形態が生み出す旋回運動によって、色彩と形態における二項対立間の分離と統合が繰り返され、やがて中央に一つの円が配された静的な画面へ落ち着きます。具象と抽象、黒と白の色彩、生死、オスとメスなど、ここでも基調をなすテーマは二元性をめぐるものでしょう。

― 祭壇画、グループ X (exh. nos. 076–078)

〈祭壇画〉は、アフ・クリント自身が構想していた螺旋状の神殿において、最上層の塔にある祭壇の間に飾られるもので、「神殿のための絵画」の総覧、集大成として位置づけられます。青や黄などの色彩に付与した役割、螺旋の形態など、彼女が「神殿のための絵画」で一貫して使用してきた要素を認めることができます。No. 1 (exh. no. 076) と No. 2 (exh. no. 077) の階層化された三角形は、神智学の教えにおける進化に関連しているのでしょうか。進化は、肉体的なものから精神的なものへと上昇し (No. 1)、また神聖なものから物質的な世界へと下降する (No. 2) という二つの方向で起きます。

〈祭壇画〉制作後の1915年終わりに、アフ・クリントは青地に浮かぶ黒い円の中に女性が描かれた小品を制作しました。この《人類の純潔》(本展未出品)を締めくくりとし、全193点からなる「神殿のための絵画」のプロジェクトが完了しました。

― 青の本 (exh. nos. 079–084)

「青の本」は10冊組の青い装丁の本で、「神殿のための絵画」がほぼまるごと収められています(それぞれ見開き左ページに自身が描いた各作品の縮小版水彩画、右ページに同じ作品の白黒写真がレイアウトされる)。サイズも技法も多様な実作を同一のフォーマットにまとめた「青の本」は、実見が容易でないこのプロジェクトの総体とその体系性を明らかにしています。アフ・クリントは実際にこのノートをドルナツハへ持参して、人智学の創始者ルドルフ・シュタイナーに見せ、意見を求めたりしたようです。

4 章

「神殿のための絵画」以降：人智学への旅

― パルジファル・シリーズ (exh. nos. 085–092)

4グループに区分された144点の水彩から構成されます。パルジファルは中世の聖杯伝説に登場する円卓の騎士の名にちなんでいますが、物語を描写するものではありません。モノクロームの正方形の色面を基本に、各色が濃度や彩度を繊細に変化させながら連続しています。時に上下左右、内外を意味する単語も描きこまれます。Inåt (内向き) は正方形の中心で文字が一つに重なり合うように (No. 73)、Uppåt (上向き) は余白部分に文字を下から上に積み上げるように (No. 77) 描かれ、文字の配置とその意味が示す方向性と、色彩効果が相互に影響し合っています。

― 原子シリーズ (exh. nos. 093–098)

22点の水彩によるこのシリーズは、物理的な原子とそのエネルギーを示す右下の正方形と、霊的な原子とそのエネルギーを示す左上の正方形で構成されています。物理的限界を超えた精神的世界への到達を思い描くアフ・クリントにとって、原子(ミクロ)は一挙に宇宙(マクロ)とつながるものでした。一方で19世紀末から20世紀初頭は、それまで物質の最小構成単位とされてきた原子が分割可能であると解明されていく時期にあたります。同時代の自然科学の発展を踏まえ、彼女の原子への関心を捉えることも可能です。

― 穀物についての作品 (exh. nos. 106–108)

― 花、コケ類、地衣類 (関連資料)

1920年前後に制作された植物をテーマにした作品でも、ミクロコスムとマクロコスムの接続や、ダイアグラムの表現が認められます。〈穀物についての作品〉では、自然観察に基づく穀類の写生と抽象的なダイアグラムとが並置されています。人智学協会の本部であるゲーテアヌムに寄贈された《花、コケ類、地衣類》では、草花の学名とダイアグラムが植物図鑑のように示されました。この図式が表すのは、眼に見える個別的外観ではなく、自然から抽出された、生命の成長をつかさどるような普遍的エネルギーと言えます。

— じんちがく 人智学

神智学協会を脱退したルドルフ・シュタイナーによって創唱された学説、教育運動。キリスト教や薔薇十字団の西洋思想を組み込み、神智学をより体系的、科学的に再構築したシュタイナーは、人間の精神が高次の霊的世界に到達できると説きました。人智学協会の終身会員となったアフ・クリントは、協会本部のあるドルナッハ（スイス）で人智学関連の文献を研究し、シュタイナーの講義にも出席していました。

— 花と木を見ることについて（exh. nos. 118–125）

人智学から影響を受けたアフ・クリントは、作風を大きく変化させました。〈花と木を見ることについて〉は、ゲーテの色彩論を知り、シュタイナー周辺で行われた水彩技法を取り入れた成果です。湿らせた紙に水彩で描くことで生まれるにじみや流れのような偶発性を活かし、色自体が形や主題を生み出すような作品で、「ローズヒップを観ながら」制作するというように、ここでも植物が主なテーマとなっています。

5 章

体系の完成へ向けて

— 地図：グレートブリテン（exh. no. 129）

1920年代に始まった水彩を中心とした制作は、人間や動物といった具体的モチーフを回帰させ、また神話性や幻想性をより色濃くしながら、幾度かの中断を挟みつつも晩年の1940年代まで続けられました。《地図：グレートブリテン》は、上空から見たイギリスへ、南東（ドイツ）から不吉な風を吹きかける人物が描かれた、のちの世界大戦を思わせるような予言的作品となっています。

— 無題（exh. nos. 131–133）

1941年には、かつて訪れたドルナッハを回想的に描いた作品を残しています。1枚目には、シュタイナーが設計した第一ゲーテアナムの建物と、そこに向かって泳ぐ白鳥の親子。2枚目では、1922年の完成後、間もなく焼失した史実同様に、建物は炎に包まれ、親鳥は水中に沈んでいきます。3枚目では、新たに第二ゲーテアナムが建設されるも、親鳥は水辺で死を迎えています。第二ゲーテアナム完成を見ることなく1925年に亡くなったシュタイナーと親鳥が重ね合わされているのでしょうか。

— ノートブック（notebooks 1–4）

1920年代半ば以降、アフ・クリントは、自身の思想や表現について記した過去のノートの編集や改訂の作業を始めました。ノートに付された **+** **×** という印は、それらが死後 20 年経ってから公開されることを示しています。さらに注目すべきは「神殿のための絵画」を収めるための建築物＝神殿の構想です。1931年のスケッチを見ると、神殿は4層からなる螺旋形状で、頂上に灯台が設置されています。建物内部の作品配置に関する具体的な検討もなされ、建物から突き出すように設けられたライブラリには、〈10の最大物〉が書物とともに飾られる計画になっていました。

東京国立近代美術館

2025年3月4日～6月15日

主催：東京国立近代美術館、日本経済新聞社、NHK

協賛：大林組、DNP大日本印刷

特別協力：ヒルマ・アフ・クリント財団

後援：スウェーデン大使館